

「岐阜市幼児教育推進プラン（案）」に対するご意見と それに対する岐阜市の考え方

意見募集期間 令和元年12月2日 ～ 令和2年1月8日

意見提出数 10通（直接提出：4、郵送：1、ファクシミリ：1、電子メール：1、意見提出フォーム：3）

意見項目数 44件

（成案の章番号及びページ番号で表記しています。）

No	該当箇所	いただいたご意見の概要	岐阜市の考え方	変更の有無
はじめに				
1	2P	2019年度より幼児教育課が設置されたことで、幼児教育・保育施設の関係者や幼児を取り巻く人々が一つの目標に向かって話し合い、実践していけることは素晴らしいことと思う。本プランが生かされ、どの子どもが幼児期に自信と誇りを持ち、仲間と考えを出し合ってクリエイティブに生き生きと輝けることを願っている。そのために幼児教育課の更なる充実が必要だと思う。	趣旨に記したとおり、市民が一丸となって子どもを育てていくことが文化として根付き、岐阜市が“幼児教育を大切にすまち”として発展していくことを願いとしています。引き続き、オール岐阜での幼児教育を推進するための取り組みを充実してまいります。	無
2	3P	「保育園」について、法律上は「保育所」だ。岐阜市でも公立は「保育所」の名称を使用している。以降の文章も保育園と記述されているため、保育園・所と表記してはどうか。	児童福祉法（昭和22年法律第164号）において保育所とされており、岐阜市では、公立は保育所、私立は保育園の名称を使用しています。保育園や保育所は、重要な幼児教育・保育施設の一つであり、本プランでも多数の言及箇所があります。そのため、記載を簡略化する趣旨で「保育園」と統一し、3Pに用語の説明を追記しました。	有

I 今を見つめて				
3	4P	非認知能力の説明について、「一つ目は…」の文章中には、「計画性」が非認知能力として記述されている。「非認知能力の説明文」中に、「計画性」が記述されていない。「市民が一丸となって」なら、予備知識のない市民にも分かるように、本文に出てくるものを中心に、具体例を列挙する必要があるのではないか。		
4		幼児期の学びの重要性の中の、「二つ目は、就学前教育では、知能指数（IQ）に代表される認知能力だけでなく、忍耐力や協調性、計画性といった非認知能力もまた重要」について、「忍耐力や協調性、計画性」を「目標に向かって創意工夫し、根気よくやり遂げようとする力や共同性、感情をコントロールする力」と修正してはどうか。また、「非認知能力を育むこともまた」とあるのを「非認知能力を育むことこそ」と修正してはどうか。		
5	5P	「こうした…」とある文中の後半について、「大人が」の主語が述語と離れ過ぎていて分かりづらい文章だ。	非認知能力については、本プランの中でもキーワードとして用いています。また、オール岐阜の幼児教育推進の趣旨から、多くの方にご覧いただけることを願っています。ご意見の趣旨を踏まえて、本文と補足説明の記載を見直し統一性を持たせるとともに、関連性が視覚的に分かるよう改めました。また、非認知能力の重要性を、より強調するページ構成としました。	有
			「大人が、子どもたちが…」と続いて長文となっていたため分かりづらかったと考えます。プラン全体を通じて主語（岐阜市や大人、幼児教育関係者などの子どもを取り巻く人々）を省略した記載がありますので、ここでも主語を省略し、読みやすく改めました。	有

6	4～8P	<p>幼児期の学びの重要性を、研究や様々な現状から示されているのは客観的にも伝わりやすいと思う。</p>	<p>本プランの策定に際しては、事前調査にあたる「幼児期の家庭教育調査」（19P）を実施するなど、現状理解に努めました。また、基本的な取り組み姿勢（9P）である「オール岐阜の幼児教育」の必要性についても客観的に示すことを目的としています。</p>	無
7		<p>「オール岐阜の幼児教育」の中に地域も一要素として入っているが、地域や企業との連携方法が見当たらない。具体的な取り組みの一つに「中学校の家庭科で保育体験」する以外に、地域の関係しそうな内容が見受けられない。</p>		
8	9P	<p>市内を歩いていて、歩道を勢いよく走る自転車を見かける。時に園外保育で街を歩く幼児を見かけるが、保育士の方々の心遣いは大変だなと思う。自転車道を作ることは無理かも知れないが乗る人の心がけが求められる。たばこの吸いながら空き缶などのポイ捨ても見かける。一人ひとりの心がけ次第で岐阜市内は美しくなるのではないかな。落ちついた美しい街として、岐阜市は自然も豊かで素晴らしいと感じるので、自然の中で幼児にゆったり遊ばせる体験も必要だと思う。</p>	<p>本プランは、岐阜市教育委員会の総合的な計画である「岐阜市教育振興基本計画」などに基づく、幼児教育分野の個別計画（2P）です。同計画では、重点として「ひびきあいによる学びの循環」を掲げ、多様な人の関わりによる子どもの学びの深まりなどを大切にしています。また、ご意見を頂いた項目に加えて、具体的な取り組みの一つである「幼児教育関係者のコミュニティ・スクールへの参画」（18P）でも、小学校の学校運営協議会（地域住民の学校運営への参画）を核とした地域との繋がりの強化に努めることとしています。</p> <p>オール岐阜の幼児教育推進において、地域や企業は重要な主体の一つです。本プランを普及周知するなどして、幼児教育を大切にするまちとしての気運醸成を図ります。</p>	無

Ⅱ 大切にしたい3つのこと				
9		<p>「子ども理解」というフレーズが分かりにくい。子どもという状態なのか、子どもの成長ステージなのか、子どもの考えていることなのか。そして、それを理解した後に、家庭ではどのように援助すればよいのか分からない。</p>		
10	10P	<p>「子ども理解」がなぜ大事なのかを、もう少し突っ込んで記すと伝わりやすいと思う。成長後の姿などと絡めて示すと分かりやすいのではないか。</p>	<p>子どもは、将来的に大人となるわけですが、子ども時代は、大人になるための準備期間ではなく、自らの人生の主人公（11P）として生きています。周囲の大人には、子どもと直接に触れ合いながら、子どもの言動や表情から、思いや考えを受け止め、子どものよさや可能性を理解しようとするのが求められます。</p> <p>本プランでは、大切にしたい3つのこととして「子ども理解」「遊びの中の学び」「発達の多様性」を掲げています。この3つは、3P・10Pの図において重ねて表現しており、それぞれに1・2・3と番号を付していません。これは、それぞれを関係の深い一体的なものとして表記することを意図したためです。「遊びの中の学び」において、家庭での接し方を考える上で役立つ情報を記載していますので、子ども理解と合わせてご覧ください。</p> <p>なお、「子ども理解」は、子どもの主体性を重視する本プランの重要な言葉の一つですので、説明を追記しました。</p>	有

1 1		<p>「遊びの中の学び」に、「非認知能力」の言葉が出てこない。4 Pの伏線を回収するためにも、この項目で、非認知能力に触れた方がよいのではないか。</p>		
1 2	1 1 P	<p>「遊びの中の学び」について、子どもの遊びは幼児教育における根幹だが、理解されにくい面があり、WEBを通して紹介するという方法は有効だと思う。子どもの遊びには様々な学びがあることを、わかりやすい注釈をつけるなどの工夫をして示していただきたい。3歳未満児の遊びの中の学びなども加えるとよい。</p>	<p>「遊びの中の学び」の意義を伝えるためのイラストを作成し、その中で育まれるものとして「非認知能力」を記載しました。また、最も根っこに近い葉に重ねることで、改めて重要性を強調しました。</p> <p>頂いたご意見は、市WEBサイトでの事例紹介において、参考とさせていただきます。</p>	有
1 3		<p>「遊びの中の学び」の2行目に「人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに」を「こどもは、周囲の事物や仲間や他の人たち」としてはどうか。また、9行目の「関わり方を創造したり」を「関わりを創造したりして、人として生きる力の基礎を培います」としてはどうか。</p>		
1 4	1 2 P	<p>文部科学省「幼児期運動指針」に非認知能力の言葉は出てこないと思うが、1 2 Pの下段の総括の中で、非認知能力と絡めてまとめてはどうか。4 Pの非認知能力の具体例にも、つなげられるといいのではないか。</p>	<p>P 1 1のイラストとも関連付けて、体の動きの獲得や非認知能力を育むとの説明を追記しました。</p>	有

15		<p>「体を動かす楽しみ」が急に掲げられてきて違和感があるが、岐阜市の幼児の実態からだろうか。「体力・運動能力の基礎」とあるが「体を動かす楽しみ・健康な体づくり」としてはどうか。</p>		
16	12P	<p>「体を動かす楽しみ」について、この項目は、「遊びの中の学び」について示すものであり、幼児期運動指針は策定されているものの、幼児教育推進プランの中で、運動遊び（他の思いも含まれているのかもしれないが、特に後半の文は運動遊びに特化した書きぶりとなっている）のみを取り上げて表記する必要があるか。もし、表記するのであれば、それ以外のことについても表記する必要があるのではないか。</p>	<p>「体を動かす楽しみ」は、「遊びの中の学び」に含まれる項目として記載しています。幼児教育推進プラン検討委員会での議論においても、運動遊びなどで育まれる社会性などの非認知能力の重要性や、子どもの体力の低下について危惧されたことから、文部科学省の「幼児期運動指針」を参考に、本プランに位置付けました。あくまで、「遊びの中の学び」に含まれることが重要で、子ども自身の興味関心を起点として、体を動かす楽しみを実感できるようにすることが大切です。</p>	無
17		<p>表題にある「要領・指針の改定（改訂）」だが、指針は改定で要領は改訂なので、表記順に改訂（改定）とするのが望ましいのではないかと。</p>	<p>見出しに「要領・指針の改定（改訂）」と記載していた箇所ですが、内容に合わせて見出しを「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」と改めました。</p>	有

18		<p>発達の多様性の説明文に「自己肯定感」という文言を入れたらよいのではないか。</p>	<p>追記しました。</p>	<p>有</p>
19	13P	<p>発達の多様性の説明文中「発達の遅れやアンバランスな様子」を「個人差」としてはどうか。また、3行目の「一人ひとり」を「一人一人」としてはどうか。</p>	<p>本プランは、保護者の方などにご覧いただくことを念頭に置いてあります。ご指摘について、幼児教育推進プラン検討委員会においても検討しましたが、「アンバランスな様子」についてはイメージがしづらいのではないかとの考えから、「発達の遅れなどが気にかかり始める時期」と修正しました。</p> <p>「一人ひとり」の記載は、「分かりやすい公用文の書き方 改訂版（増補）」（磯崎陽輔著、株式会社ぎょうせい）によれば、「一人一人」と「一人ひとり」の表記が混在しているとした上で、文部科学省用字用語例では「一人一人」とされているものの、元来は「ひとりひとり」と読んでいたため、更なる研究が必要だとされています。</p> <p>本プランは、ぎふし未来地図や教育に関する大綱・基本計画などの総合的な理念・計画に基づくもので、これらの文書では「一人ひとり」と表記していることから、本プランにおいても「一人ひとり」と記載することとします。</p>	<p>有</p>

20	13P	<p>「インクルーシブ教育」について、文部科学省は「インクルーシブ教育システム」の用語は使っているが、「インクルーシブ教育」という言葉は使用していないが、大丈夫か。国の施策を越えていくのは大歓迎だ。</p>	<p>第2期の岐阜市教育振興基本計画（平成25～29年度）において、「インクルーシブ教育について」として、中央教育審議会・初等中等教育分科会の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月）を参考にご紹介しています。本プランにおいても、「発達の多様性」に関連する用語として記載しています。</p>	無
Ⅲ 価値の共創に向けた3つのアプローチ				
21	14～17P	<p>「1 幼小をつなぐ」「2 家庭教育を応援する」「3 実践研究を推進する」の部分の文章に、文末が「～することです」「求められます」「重要です」のような、方向性を示す書き方で終わっている文章と、「応援します」「育てていきます」のように、実際に実施する内容を示す文章とが混在しているために、この「1 幼小をつなぐ」「2 家庭教育を応援する」「3 実践研究を推進する」の部分の方向性を示す目的がぼやけてしまっている。方向性を示す文章に統一をするとよいのではないか。また、「1 幼少をつなぐ」「2 家庭教育を応援する」「3 実践研究を推進する」を受けて、「4 具体的な取り組みの方向性」とありますが、4は方向性ではなく、「具体的な取組」とするべきではないか。文末が「～します」で終わっている。</p>	<p>価値の共創に向けた3つのアプローチについて、方向性を示す文章に統一するとともに、「具体的な取り組みの方向性」を「具体的な取り組み」と改めました。</p>	有

22	14P	<p>「幼小をつなぐ」について、1行目から4行目までの文章が分かりにくい。5行目の「大人同士」を「保育・教育に関わるもの同士」としてはどうか。また、7行目から8行目までの文章は、育てほしい姿が目標のように強く感じられる。また、9行目の「年長の子どもの多くは、」を「年長児の多くは」としてはどうか。</p> <p>楽しみばかりでなく、実態は不安感を持つ年長児や保護者も多いので、そのことも表記してほしい。</p>	<p>「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」については、本プランにおいて、できるように育てなければならないという到達目標ではないとの注記を複数個所に付けています。また、実態に関するご指摘については、14P下段の棒グラフや17P上段の棒グラフで表記しています。</p> <p>なお、その他のご指摘について、記載を改めました。</p>	有
23		<p>「家庭教育を応援する」について、3行目の「情報を発信するなどして、家庭教育を応援します。」を「発信したり、相談に乗るなどして、家庭教育を支援します。」としてはどうか。</p>	<p>家庭教育を支援するための相談の在り方について、岐阜市の多くの幼児教育・保育施設では、未就園児の会などを開催して、直接的な支援を行っています。教育委員会においても、教育・保育施設や関係部局・機関と連携しながら相談機能の強化を図ってまいります。</p>	有
24	15P	<p>「家庭教育を応援する」について、教育委員会から各家庭にどのように情報を発信するのか、具体的な方法があげられていないので分からない。特に、まだ保育所にも入所していない3歳未満の子どもがいる家庭は、どのように情報をもらえるのか。</p> <p>※3歳未満の幼児教育でしたほうがいいことの情報がそもそも少ないのかもしれないが。</p>	<p>具体的な取り組みの中で「幼児教育セミナー」の開催や「のびのび育てぎふっ子」の配布を通じて情報提供してまいります。また、どのような情報を届けるか、どのように情報を届けるか、について、頂いたご意見を参考に、引き続き検討・実施してまいります。</p>	無

25		<p>「家庭教育を応援する」の楕円で囲んだ枠内は、家庭がどのようにしたらいいか書いてある大事な箇所なので、もっと分かりやすく目立たせたほうが、親が読むには親切だと思った。</p>	<p>全体の中で、より着目していただけるようにページ構成を改めました。</p>	有
26	16P	<p>「親育ち」について、アンケート結果から、子育ての悩みは保護者同士で相談するという結果があるので、育児不安・悩みを持っている保護者に対する支援を文章にすることも大切だと思う。</p>	<p>「発達の多様性」(13P)の中で、乳幼児期から児童期にかけての切れ目ない支援の必要性和、関係部局・機関が連携して対応することを掲げています。</p> <p>また、教育委員会においても、教育・保育施設や関係部局・機関と連携しながら相談機能の強化を図ってまいります。</p> <p>頂いたご意見は、今後の施策の推進にあたって、参考とさせていただきます。</p>	無
27	17P	<p>「実践研究を推進する」について、3行目の「様々な実践」のところで、単なる実践ではなく研究的視点を持って取り組む事業であることが大切ということなので、「実践研究」と研究面を強調した表記にした方がよい。</p>	<p>記載を改めました。</p>	有

28	17P	<p>「相互研鑽」「実践の可視化・共有化に」を「には」としてはどうか。</p> <p>また、「公立幼稚園」の「2019 年度時点、教育委員会は、2 園の公立幼稚園を所管しています。2014 年度からは、最大で 4 園あった公立幼稚園を、2 園体制として、研究実践、教育・子育て支援、総合発達支援の拠点機能を担う幼児教育センターとしての役割を果たしています。」とあるが、「2014 年度からは、最大で 4 園あった公立幼稚園を」の記載は必要ないのではないか。</p>	<p>公立幼稚園については、教育委員会が所管する幼児教育施設のため記載していましたが、岐阜市では保育所も設置しておりますので、公立幼児教育・保育施設として担うべき役割についての記載に改めました。</p>	有
29		<p>「私学振興」について、様々な補助の一部として特別支援と特色ある学校教育に関することを図とともに示してあるのかもしれないが、「実践研究」という項目の中では具体として分かりにくく伝わりにくい。</p>	<p>実践研究を推進することで、岐阜市の宝である多様な実践主体が、相互に磨き高め合っていく環境整備を図ります。私学振興補助金は、学校法人が設置する園の特色ある教育や特別支援教育に対して費用面を支援するものですが、岐阜市の支援として引き続き重要であるとの考えに立ち記載しています。なお、一部記載を改めました。</p>	有
30	18P	<p>「具体的取り組みの方向性」について、まとめたの表記より、各項目のページで記してあった方が分かりやすいのではないか。</p>	<p>具体的な取り組みの一覧性を高めるために、まとめて記載しています。</p>	無

31	18P	<p>運動遊びは大事なことだとは思いますが、あくまでも幼児の生活の一部として取り組む内容だと思うので、実践研究の柱として掲げる必要があるのだろうか。遊びと称して、ねばならぬ活動になることを危惧する。</p>	<p>大切にしたい3つのことの一つである「遊びの中の学び」の関連項目で、体を動かす楽しみとしていることから、具体的な取り組みの表記についても、「体を動かして遊ぶ楽しさの普及」と記載を改めました。</p>	有
32		<p>「運動遊びの普及」を「体を動かして遊ぶ楽しさ」としてはどうか。優先順位をどのように考えるか。</p>		

33		<p>具体的取り組みにある「のびのび育てぎふっ子」について、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」がリーフレットにのっていることで、保育園や幼稚園でどのような育ちを目指しているのか、保護者も知ることができると感じた。リーフレットを見て、たくさん書かれている項目について、親が「私はこれができる」「こうしないとだめなんだ」とプレッシャーを感じ、追いつめてしまうのではないかと思った。実際の子どもは、リーフレットに書かれている通りには育たないことが多いため、困った時にどのような対応をしたらよいのか、リーフレットに書いてあるとよいのではないかなと思った。</p>		
34	18P	<p>具体的取り組みにある「のびのび育てぎふっ子」について、母子手帳を渡す時に、このリーフレットと一緒に渡し、子どもがまだ生まれていない余裕のある時に、こうしたらよいと予備知識として頭に入れてもらい、子どもが産まれてからは、「一緒にあそびを楽しむ」「大好きなことを伝える」など、簡単で分かりやすい、できそうなことを記載して、そして時間がなくてもさっと読めるようなリーフレットを渡していくとよいのではないか。</p>	<p>「のびのび育てぎふっ子」は、平成27年度に、幼稚園や保育所の幼児教育関係者や学識経験者を交えた「就学前教育プログラム検討委員会」において検討し、作成しました。就学前の子どもをもつ保護者にお届けできるよう、各地の保健センターで実施される4か月健診の際や、市内の幼児教育・保育施設を通じて配布しています。頂いたご意見は、今後の施策の推進にあたって、参考とさせていただきます。</p>	無
35		<p>具体的取り組みにある「のびのび育てぎふっ子」について、リーフレットを見て、どこで渡すのだろう、どのように言って渡すのだろう、保護者の方が見る時間はあるのだろうと思った。そのため、3つの点についてさらに明確に示すとよいと思った。例えば、保育園や幼稚園、行く機会の多い保健センターで渡したり、家庭教育が重要であることを伝えながら渡したり、子どもが産まれる前の余裕のある時に、母子手帳と一緒に渡したりするとよいと思った。</p>		

36	18P	<p>具体的取り組みにある「幼児教育関係者のコミュニティ・スクールへの参画」について、コミュニティ・スクールという言葉の周知が必要と考えたため、コミュニティ・スクールの説明文を加えるとよい。市立幼・中・特別支援学校には直接関係がないので、簡潔にするためにも省いてよいのではないかと。市立幼稚園は2園しかないが、14Pで10園以上から入学するとあるので、私立幼稚園とも連携を取った方がよい。</p>	<p>コミュニティ・スクールの説明を追記するとともに、市立の全小中学校などとして、記載を改めました。また、頂いたご意見は、今後の施策の推進にあたって、参考とさせていただきます。</p>	有
37		<p>具体的取り組みにある「プレスクールの開催周知」について、誰を対象としているかは分かりやすい。プレスクールの言葉の意味や内容についての説明があるとよい。外国籍の人に知ってもらうにはどうしたらよいのか。また、外国籍の子どもだけでなく、様々な子どもにもプレスクールを体験できる機会があってもよいのではないかと。</p>	<p>プレスクールの説明を追記しました。また、頂いたご意見は、今後の施策の推進にあたって、参考とさせていただきます。</p>	有

38	18P	<p>公立の加納幼稚園に子どもを通わせた経験のある保護者として、公立幼稚園は、幼児教育の実践教育の場として本当に相応しく、今後も公立幼稚園が先進的な役割を果たして下さるよう、心から願っている。</p>	<p>公立幼稚園は、研究実践、教育・子育て支援、総合発達支援の3つの機能を担う幼児教育センターとして、遊びを通じた総合的な指導を充実させ、将来の学びの基礎となる心情・意欲・態度や自分で考え判断し行動する力を身につけることを教育の基本理念としています。本プランにおいて、遊びの中の学びの重要性を掲げていることから、公立幼稚園におけるこれまでの実践をいかして、岐阜市の幼児教育の充実に資する拠点園としての役割を果たすことが求められます。引き続き、公立施設として求められる取り組みが実施できるよう努めてまいります。</p>	無
39		<p>公立幼稚園の拠点園の役割は大変重要だ。一方で、岐阜市の幼児教育を研究・実践するにあたっては職員数が少ないと思う。支援を要するお子さんも多くなってきており、支援員の充実も必要と考える。また、幼小の連携も謳われている現在、幼小の連携に重点的に取り組む幼稚園が小学校や中学校とも近接した場所に新設されることを望む。</p>		
参 考				
40	20P	<p>「乳幼児期からの育ちと学びの見通し」の図について、根拠となる要領・指針の領域や育ってほしい内容を図にしていると思うが、乳児期と1・2歳児に繋がりが感じられない。指針では1・2歳児の領域の内容は、乳児保育の内容の3つの視点及び3歳以上児の保育の内容における5つの領域と連続するものであると示している。乳児保育の内容と1・2歳児の保育内容の繋がりが分かる図として示されるとよいと思う。</p>	<p>繋がりが感じられるよう、木のイラストを用いた記載に改めました。</p>	有

—				
4 1	—	全体を通して楕円で囲んだ内容について、楕円の中の内容は、何を伝えたいのか。9Pでは、岐阜市として取り組みたい思いのように受け止めたが、あとについては単にそれぞれの説明のように感じる。岐阜市としてプランにかけるとの思いを記すと伝わりやすく、楕円の内容に一貫性が感じられるのではないかと感じる。書きぶりを多少変えるだけでも随分変わると思う。	関連する補足事項を記載しています。いずれも、本プランの中で重要と考える事項を簡潔に記すとともに、目を惹くデザインとすることで、ページ構成にメリハリをつけました。	無
4 2		幼児教育セミナーでも紹介された「非認知能力」や「自己肯定感」の重要性について、市内のどこの保育所（園）や幼稚園などでも意識して保育されるようになることを市民に約束してほしい。また、そのことを親世代が入園・進学前に分かるように広報することで親世代が安心できるようにしてほしい。	非認知能力や自己肯定感は、本プランにおいても重要な概念として位置づけています。本プランの実現に向けてオール岐阜で取り組むことで、重要性が広く意識されるようになることを目指します。また、本プランに定める施策の状況は、幼児教育関係団体が集う場において定期的に把握・共有することとしています。施策の進捗状況は、様々な場で広報できるように努めてまいります。	無
4 3		岐阜の街の移り変わりや人々の暮らしについて、幼児といえども話を聞く機会をもつことは有効な教育の手段ではないかと感じる。世界の中で貧困な暮らしをしている体験を幼児に話したことがあるが、実に熱心に聞き入り、質問まで出て驚いたことがある。社会に対する関心が、ひいては戦争のない平和な世の中につながることを感じた。	子どもの育ちにおいて、環境との関わりは重要な要素です。特に近年は、SDGs：持続可能な開発目標（5P）に関心が集まるなど、社会問題の解決はこれからの時代における重要なテーマです。	無
4 4		最近、早期教育でひらがなや英語などの学習を早める傾向があると思うが、まずは体をつくること、人とコミュニケーションを取ることが大切だ。異年齢の関わりの中で、自分の意見を言ったり年上に従ったり年下に優しくしたりして、縦社会を学ぶことなどが一番大切と考える。そうして切磋琢磨することで、自分をしっかりもった人間に育つような気がする。	本プランでは、冒頭で、より豊かな人生を送るためには、非認知能力と認知能力をバランスよく育むことが必要としています。また、遊びの中の学びの一項目として体を動かす楽しみを位置付けています。人とコミュニケーションを取るなどして育まれる非認知能力や、体を動かす楽しみを感じながら体をつくることは、幼児期の学びにおいて重要です。	無